

第3期（平成24年度）事業報告書

（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

1. 事業内容

(1) 研究助成事業

① 第21回（平成24年度）助成事業の概要

本年度の研究助成総額は、7,160万円といたしました。

② 応募の状況

本年度の研究助成募集は、4月1日より、財団のホームページでの公募を行いました。

7月6日の締切日までに、128件の応募がありました。

③ 選考結果

平成24年10月5日（金）、丸ビルコンファレンスにおいて選考委員会を開催し、慎重審議の結果、86件（助成金総額7,160万円）が、助成対象候補として選考されました。その後、10月31日（水）の第6回臨時理事会で、選考案どおり決定いたしました。

助成決定先の研究者および研究題目は次頁の表の通りです。

なお、財団設立以来、21期間における助成の累計は1,011件、助成総額は10億6,300万円となっております。

No	所属機関	役職	申請者	テーマ	助成金額 (円)
12-01	九州大学 総合理工学研究院 エネルギー環境共生工学部門	准教授	伊藤 一秀	換気効率概念を組み込んだCO2ディマンド制御型換気 空調システムの開発と性能評価	1,200,000
12-02	東京大学 新領域創成科学研究科	准教授	吉永 淳	ハウスダストの放射能汚染に関する調査	1,000,000
12-03	あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター	主任研究員	福田 聡史	強度・遮音性能に優れたメタルレス木質耐力壁の開発	1,000,000
12-04	山形大学 大学院理工学研究科	教授	廣瀬 文彦	室温原子層堆積法による住宅建材のナノシリカコート 法の研究	1,000,000
12-05	山口大学 理工学研究科 環境共生系専攻	助教	鈴木 祐麻	鉄スクラップを還元剤として用いた動電型反応性バリア システムによる硝酸イオンの還元とその生成物の回収	1,140,000
12-06	秋田県立大学 木材高度加工研究所	教授	栗本 康司	メカノケミカル処理による木材の化学修飾と混練型木 材プラスチック複合材料への利用	750,000
12-07	第一工業大学 工学部 建築デザイン学科	教授	古田 智基	木造住宅向け次世代フェイルセーフ型耐(制)振・耐 風デバイスの開発・普及	1,200,000
12-08	日本色彩研究所 研究第1部	シニアリサー チャー	江森 敏夫	CGIによる限度見本スケール制作と製品外観検査基準の 標準化に関する研究	990,000
12-09	名古屋大学大学院 生命農学研究科	教授	佐々木 康寿	伝統的構法における古材仕口接合の力学挙動解析	1,000,000
12-10	筑波大学 生命環境系	准教授	小幡谷 英一	木材の気相アセチル化における内部割れ発生機構の解 明	900,000
12-11	北見工業大学 未利用熱科学研究室	准教授	三木 康臣	空気集熱式熱電取得屋根を有する次世代北国省エネ住 宅の開発研究	1,000,000
12-12	森林総合研究所 複合材料研究領域複合化研究室	主任研究員	高麗 秀昭	温水処理が木質ボードの耐久性に及ぼす影響の解明	1,200,000
12-13	東京理科大学 工学部 第一部建築学科	助教	神戸 渡	木質構造の構造設計者の育成・教育を目指した資料作 成	1,000,000
12-14	香川大学 工学部 安全システム建設工学科	教授	野田 茂	居住環境改善のための天井構造の制震化とその検証実 験	1,600,000
12-15	筑波大学 生命環境系	教授	青柳 秀紀	「餌-シロアリ-腸内微生物叢」系を高度利用した環境 低負荷型の木質瓦礫処理法の開発	1,200,000
12-16	早稲田大学 理工学術院	教授	中川 武	ベトナム・フエ伝統的上流住宅の部分解体調査と保存 修理計画の策定	1,600,000
12-17	京都府立大学大学院 生命環境科学研究科	教授	大場 修	佐渡島から見る日本の伝統的町家の在地性と外来性	1,000,000
12-18	芝浦工業大学 工学部	教授	蟹澤 宏剛	韓国建設業の国内および海外における生産・マネジメ ントシステムに関する基礎的研究	1,590,000
12-19	東京大学 生産技術研究所 中埜研究室	助教	崔 琥	途上国の伝統的構造形式である内蔵無補強組積壁体の 面外転倒を含めた真の耐震性能の究明および補強手法 の開発	850,000
12-20	産業技術総合研究所 ヒューマンライ フテクノロジー研究部門	研究グルー プ長	都築 和代	安全で快適な半屋外・居住環境形成のための高齢者の 温熱生理・心理・行動特性に関する研究	1,000,000
12-21	明治大学 理工学部	教授	小山 明男	木造戸建て住宅の外壁に使用されるメタルラスの長期 耐久性評価手法の開発	600,000
12-22	広島工業大学 環境デザイン学科	准教授	宋 城基	通年利用型のデシカント空調システムの開発研究	800,000
12-23	北九州市立大学 国際環境工学部	教授	白石 靖幸	集合住宅を対象とした構法一体型床下暖冷房システム の提案と性能検証	2,000,000
12-24	特定非営利活動法人 消費者住宅フォーラム	理事長	矢野 方雄	リフォームにおける「ゼロ・エネルギー住宅」実現手 法の事例的研究	1,000,000
12-25	椋山女学園大学 生活科学部	教授	村上 心	中国の集合住宅ストックの再生技術に関する研究	1,000,000
12-26	北海道大学 大学院工学研究院 空間性能システム専攻	准教授	森 太郎	寒冷地における日射取得最大化に向けた技術開発	870,000
12-27	産業技術総合研究所 安全科学研究部門	研究員	篠原 直秀	建材中のフタル酸エステル類への経皮曝露評価 ～皮 膚透過性試験法の確立と応用～	1,000,000
12-28	産業技術総合研究所 安 全科学研究部門	研究員	畑山 博樹	建設産業における金属消費量変化の要因分析と将来推 計	1,000,000
12-29	産業技術総合研究所 ナノシステム研究部門	主任研究員	大矢根 綾子	室内空気環境を浄化するセラミック微粒子の革新的形 成技術の開発	1,000,000
12-30	秋田県立大学 木材高度加工研究所	教授	中村 昇	表層塑性化による無背割れ心持ち材の乾燥割れ抑制技 術の開発	950,000

No	所属機関	役職	申請者	テーマ	助成金額 (円)
12-31	森林総合研究所 木材改質研究領域	チーム長	桃原 郁夫	品確法劣化対策等級の基準の妥当性に関する研究	840,000
12-32	北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所	研究主任	糸毛 治	熱変性が少ない断熱材を用いた木造壁体の防火設計に関する研究	1,600,000
12-33	名古屋商科大学 コミュニケーション学部現代教養学科	教授	納村 信之	高蔵寺ニュータウンにおける賃貸集合住宅のDIY住戸改修実験	1,000,000
12-34	岐阜県産業技術センター 環境・化学部	主任専門研究員	藤田 和朋	高活性と耐久性を有した光触媒担持布帛の開発と住宅内装材への応用に関する実証研究	1,200,000
12-35	兵庫県立健康生活科学研究所 生活科学総合センター	主査	青木 幸生	床用敷物から放散される室内化学物質種とその放散特性	600,000
12-36	東京大学生産技術研究所 野城研究室	助教	信太 洋行	循環型インフィルの実現に向けた小型H形鋼の開発	1,000,000
12-37	東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻	准教授	藤田 香織	書院造建築の免震化効果の検証	1,600,000
12-38	福山大学 工学部・建築・建設学科	准教授	寺井 雅和	竹繊維補強セメント複合材料の開発と活用に関する研究	1,000,000
12-39	ものづくり大学 技能工芸学部建設学科	教授	高橋 宏樹	プレキャストコンクリート製品の表面仕上り状態の品質管理システムの構築	750,000
12-40	横浜国立大学 都市イノベーション研究院	助教	江口 亨	住宅メーカーの草創期における商品開発のプロセスに関する研究	450,000
12-41	九州大学 大学院 芸術工学研究院	准教授	吉岡 智和	コンクリート系共同住宅の財産保護のための外壁地震被害シミュレータの開発	1,200,000
12-42	奈良女子大学 研究院・生活環境科学系	教授	中山 徹	深層崩壊に対応した安全な居住地整備に関する研究	1,280,000
12-43	関東学院大学 工学部建築学科	准教授	遠藤 智行	近年の住宅における建物気密性能に関する研究	1,000,000
12-44	京都大学大学院 農学研究科	助教	築瀬 佳之	木造建築物における超音波を用いた生物劣化の非破壊評価法の開発	1,000,000
12-45	京都大学 大学院・ 工学研究科・建築学専攻	教授	銚井 修一	入浴時の血圧予測に関する研究	1,000,000
12-46	神奈川大学 工学部建築学科	教授	曾我部 昌史	日韓建築家展覧会と連続シンポジウムを通じた東日本大震災後の建築家の活動意義とこの先の住宅及び建築の可能性に関する研究	500,000
12-47	秋田県立大学 木材高度加工研究所	嘱託職員 (流動研究員)	鎌田 貴久	木質ボードねじ接合部せん断性能に関する研究	950,000
12-48	滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科	教授	陶器 浩一	実大モデルを用いた竹材による仮設建築の構築方法確立に関する研究	1,000,000
12-49	鹿児島工業高等専門学校 都市環境デザイン工学科	教授	前野 祐二	廃石膏ボード由来の廃石膏粉を主原料とした環境低負荷固材・硬化板の開発	1,190,000
12-50	長崎大学 教育学部	助教	木村 彰孝	スギスリット材による居住環境の改善効果の解明	950,000
12-51	横浜国立大学大学院 工学研究院 機能の創生部門	教授	高橋 宏治	経年劣化部を有する建材の長寿命化技術の開発	930,000
12-52	釧路工業高等専門学校 建築学科	准教授	西澤 岳夫	チセとトイチセを用いた先住民族の生活環境比較に関する研究	1,360,000
12-53	京都大学 生存圏研究所	助教	北守 顕久	木質構造の大規模化に向けたCLT-DP接合を用いた高耐力鉛直構面と工法開発に関する研究	1,000,000
12-54	秋田県立大学 木材高度加工研究所	准教授	澁谷 栄	室内空間におけるVOCがアレルギーとなるダニの増殖に与える影響	480,000
12-55	産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門	主任研究員	野田 和俊	ソーシャルネットワークサービスを活用したスマートセンサによる住宅環境管理システムの開発	1,000,000
12-56	新潟県立大学 国際地域学部	教授	坂口 淳	住宅を対象とした多数室換気測定法に関する研究	930,000
12-57	前橋工科大学 工学部・建築学科	准教授	三田村 輝章	伝統的養蚕農家の持つ室内環境調整メカニズムの解明と現代住宅への応用の検討	720,000
12-58	三重大学 工学研究科 建築学専攻	教授	花里 利一	ギリシャ・パルテノン神殿の歴史火災による損傷評価に関する研究	1,000,000
12-59	秋田県立大 システム技術学部 建築環境システム学科	助教	細淵 勇人	秋田県における紫外域日射量の多地点観測及び、その推定モデルの開発検討	700,000
12-60	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科	教授	柳田 良造	美濃路中山道の宿場町の町並と伝統的建造物調査	950,000

No	所属機関	役職	申請者	テーマ	助成金額 (円)
12-61	静岡大学 農学部	助教	小林 研治	大径ビスを用いた接合部のせん断性能	1,000,000
12-62	東北大学 工学研究科 都市・建築学専攻	助教	ガヴァンスキ 江梨	経年劣化を考慮した板ガラス耐風圧性能評価法の提案	500,000
12-63	岡山県立大学 情報工学部	助教	島崎 康弘	人体生理情報に基づく人体・環境非一様性の把握	350,000
12-64	産業技術総合研究所 健康工学研究部門	産総研特別研 究員	岡本 洋輔	光の波長分布特性が視作業時の眼疲労に与える影響－自然光の効果的利用を目指して－	500,000
12-65	東京大学 生産技術研究所 川添研究室	特任研究員	吉武 舞	エネルギー需給と環境制御手法からみた日本の近現代住宅	350,000
12-66	秋田県立大学 木材高度加工研究所	流動研究員	田中 孝	木材の人工乾燥が木材中に含まれるセシウムの挙動と析出部位に及ぼす影響の解明	400,000
12-67	第一工業大学 工学部・建築デザイン学科	講師	位田 達哉	果実核廃棄物を利用した炭素質吸着材の建築内装仕上材としての適用に関する研究	400,000
12-68	京都大学 生存圏研究所	技術補佐員	村上 了	スクリーンの引抜き性能における有限要素法結果と実験結果の比較	300,000
12-69	東京大学 生産技術研究所	助教	樋山 恭助	ゼロ・エネルギー熱源による住宅用デシカント空調システムの開発	400,000
12-70	奈良女子大学 生活環境学部	助教	工藤 瑠美	動作支援からみた建築部位・部材の手での接触抵抗の評価方法に関する研究	350,000
12-71	秋田県立大学 木材高度加工研究所	流動研究員	楠本 倫久	林地残材より得られた針葉樹精油の酸化と生物活性に関する研究	500,000
12-72	徳島大学 工学部 建設工学科	助教	塚越 雅幸	産業副産物をプレキャストコンクリート部材に適用した場合の耐久性評価	400,000
12-73	千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科	助教	石原 沙織	漆喰壁の吸放湿性能	400,000
12-74	首都大学東京 都市教養学部 理工学系機械工学コース	助教	坂井 建宣	使用済タイヤ強化ポリ乳酸の粘弾性特性と衝撃特性	350,000
12-75	大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻	助教	柏 尚稔	常時微動測定による杭基礎建物の耐震性能予測手法の提案	350,000
12-76	鹿児島工業高等専門学校 都市環境デザイン工学科	助教	毛利 洋子	ペットボトルイルミネーションのイベント継続を契機に育む街のデザイン	330,000
12-77	滋賀県立大学 環境科学部	助教	永井 拓生	直交長押を用いた木造建築の耐震補強方法の開発	350,000
12-78	日本大学 理工学部建築学科	助手	廣石 秀造	細径間伐材を用いた集積型木質構造の適用性に関する研究	350,000
12-79	日本大学 理工学部	研究所研究員	落合 正行	農業廃材を有効利用したOSSB・麦わら成型合板のモバイルアーキテクチャーへの活用に関する研究	350,000
12-80	東京大学大学院 建築学専攻	博士課程一年	陳 建中	東アジアの「都市集落」におけるコミュニティの居住継承のメカニズム	300,000
12-81	京都大学大学院 農学研究科 生物資源経済学専攻	博士後期課程	中川 宏治	木造住宅における国産材の使用に対する消費者選好の分析	300,000
12-82	奈良女子大学 大学院人間文化研究科	博士後期課程	謹 良華	観光開発による歴史遺産都市・周辺農村の変容と将来計画に関する研究	300,000
12-83	奈良女子大学 人間文化研究科	博士後期課程	北山 めぐみ	名古屋市町並み保存地区における歴史的町並みの整備実態に関する研究	250,000
12-84	東京大学大学院 工学系研究科	博士後期課程	熊 英	渦電流磁気センサ探査機と3次元電磁場解析を用いたコンクリート中の鉄筋腐食形状変化の逆解析に関する研究	300,000
12-85	岩手大学大学院 連合農学研究科	博士課程2年	森川 卓哉	ヒノキ廃材中の生物活性成分の利用	300,000
12-86	鹿児島大学 理工学研究科	博士後期課程3 年	窪田 真樹	標高を考慮した住宅の省エネルギー基準の地域区分に関する考察	300,000

86件 7,160万円

(2) 自主研究事業

〔1〕 日中高齢者住宅対応研究会

(委員長：東洋大学 高橋 儀平 教授・北京理工大学 張 乃仁 教授
・北方工業大学 林 文浩教授)

高齢化が急速に進行している社会に対応した住環境の整備について日中両国が協力してバリアフリー環境を普及促進させる上での課題を洗い出し、解決策を検討する必要がある。高齢化社会を経験した日本の経験を効果的に中国に伝達し、さらに改良を加え、日中両国へ展開させる狙いで、これまでの中国での取り組みを分析、評価、技術的検証を行い、技術的支援が可能な提案型の研究を進めてきたが国際情勢の問題で調査が中断しており、情勢が好転するまで本研究会は中止とする。

[実施事項]

1. 中国および北京市における高齢化社会の特徴と課題の解明
2. 北京市における高齢者の地域居住サポートシステムの現状解明
3. 高齢化に対応した住環境整備の法制度と現状

これまで北京での調査結果の分析、法制度に関する文献を入手し、調査した。

〔2〕 「大樹町次世代省エネ住宅」第2回 LIXIL 国際学生建設コンペ

(共催 株式会社 LIXIL (総合研究所)、北海道大樹町)

寒冷地の過酷な気象条件かつ、インフラ基盤の弱い北海道大樹町の地域特性を活用して、世界の最先端の技術を導入、また北の大地特有の冬の雪、春から夏にかけての樹木、農作物の壮大な景観とマッチする省エネ住宅の建設をテーマに世界の有力大学の学生による設計コンペティションを実施し、4月27日の開催公開審査会にて慶應義塾大学「Barn House」が最優秀作品に決定された。

「メムメドウズ」に実際に実験住宅として建設され11月18日に現地にて竣工式を行った。今後は省エネ効果のデータ等、実験データの技術的な有効性を検証し、社会に情報を発信する。

[審査委員]

隈 研吾 (委員長、東京大学 教授)、野城 智也 (審査員、東京大学 教授)、
貝島桃代 (筑波大学 准教授)

(参加大学)

清華大学 (中国) 中国美術学院 (中国) コロンビア大学 (米国)
マサチューセッツ工科大学 (米国) AA スクール (英国)
アアルト大学 (フィンランド) ミュンヘン工科大学 (ドイツ)
ミラノ工科大学 (イタリア) スイス連邦工科大学 (スイス)
オスロ大学 (ノルウェー) 慶應義塾大学 (日本) 東北大学 (日本)

〔3〕MEM環境建築サミット最優秀作品の住宅建設

(共催：大樹町 協賛：株式会社 LIXIL)

東日本大震災復興支援イベントとして東日本の学生を対象にした住宅デザインコンペティションで最優秀作品に選出された早稲田大学「町まとう家」が「MEMメドウズ」に実際に実験住宅として建設された。11月18日に現地にて竣工式を行った。今後は省エネ効果のデータ等、実験データの技術的な有効性を検証し、社会に情報を発信する。

〔審査委員〕

隈 研吾氏 (東京大学教授) ダルコ・ラドビッチ (慶応大学教授)
藤本壮介 (建築家) 佐藤 淳 (建築家) 中村拓志 (建築家)
原田真宏 (建築家) 五十嵐淳 (建築家) 川添善行 (東京大学川添研究室主宰)
佐藤淳 (建築家) 馬郡文平 (東京大学特任研究員) 齊川拓未 (建築家)

〔4〕健康のための住宅環境研究会

(委員長 京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 銚井修一教授)

寒冷な冬季環境下にある大樹町を対象として、温熱・光環境を改善することにより睡眠の質の向上をはかり、もってより健康な生活の実現を目指す。また、環境変化前後の比較により、断熱などの環境改善が及ぼす影響の定量的評価の可能性を探る。

〔実施事項〕

- ・ 大樹町の一般家庭宅をリフォーム (寝室居室の内窓・電動カーテン・照明)
- ・ 高齢者の活動量、心拍等の身体データ計測
- ・ 室内外の温湿度、照度、アレルゲン量、カビ浮遊菌の計測
- ・ 睡眠に関わる主観データの聞き取り調査

2012年12月～2013年4月まで計測を行い6月に初年度結果を取りまとめの予定。2014年度も継続して社会実験を行う。

〔5〕バングラデッシュ竹構造の家

(委員長：長岡造形大学 山下 秀之教授)

バングラデッシュは北海道の約2倍の面積に15倍の人口密度と人口密集地帯であり、今も人口は増加傾向にある、また洪水や暴風が多くデルタ地帯では10年に1度の洪水では国土の70%が沈む国である。そこでバングラデッシュ特産の竹を主体構造とする複数階住宅を建設することによって、人口増加による農地の宅地化をとめ、3年で生育する竹を利用して環境負荷を低減することを研究目的として「MEMメドウズ」に洪水や暴風に強いボラック竹(世界最強の竹、南米産グアドゥアに匹敵、3年で成木)による2階建ての高床式実験住宅を建設した。今後は強度、居住性等の実験を行いながら実用に向けた研究を進めて行くと同時に

に日本国内の建材にもその研究成果を適応し、竹の特性である曲げ強度が高い性能を取り入れ、耐震性住宅及び建材を研究する。

〔6〕害虫研究会

(委員長：酪農学園大学 佐々木教授)

住生活を阻害する害虫(蚊、ハエ、カメムシ、虻)の対策は、網戸がメインで40年来変わっていない。低炭素住宅にとり、通風が大きなテーマとなっているが、窓を開ける際の現在の網戸は通風量が下がってしまう。そこで、網戸の種類・構造の新しい形等をめざし、協働研究を推進する。

[実施事項]

住宅害虫の生態調査(4年間)

虻、カメムシ、蚊、ハエ等住宅で嫌われる各昆虫の生態権威である、北海道酪農学園大学 佐々木均教授ご指導による、新種網を用いたトラップ・網戸によるフィールド実験

① 生態調査に基づいた新構造網の開発(1年)

② 生態状況調査

・虻

メムメドウズ内 馬パドック・宿泊施設周りに新材質網を使用したトラップを設置し、虻を捕捉することにより、馬・人への害を減らす。

初年度は 新材質網の有効性(捕捉種類・数)を把握し翌年に方法を見直す。

・カメムシ

秋に床下換気口・窓の隙間より建屋に進入(暖かい家に入る)

昔は、家が寒くて冬眠したが、リフォームで暖かくなり冬でも活動するようになった。

9月末～11月にかけて、床下換気口・窓外部全体に新材質網を貼り進入防止する。これにより住宅のどの部分に侵入防止を図ればよいか明確にする。

〔7〕環境技術研究機構「メムメドウズ」の管理運営

実験住宅「メーム」及びスマートリフォーム住宅を東京大学生産技術研究所による耐震、断熱等の実験検証を進めると同時に環境を含む住生活の研究を目的として国際学生建築コンペの最優秀作品の建設と検証実験を行い、住生活をとりまく多様な実験施設として運用を図って行く。

(施設概要)

1. 実験住宅「メーム」「竹の家」「町まとう家」「Barn House」

2. スマートリフォーム住宅

事務棟 宿泊・ラボ棟 中央住宅棟 2軒住宅棟 ログハウス1号棟

ログハウス2号棟 多目的ホール棟 レストラン棟

2. 理事会・評議員会

(1) 第5回 通常理事会

日時：平成24年5月18日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 第2期（平成23年度）事業報告書の承認
第2号議案 建設仮勘定（建物）を基本財産からその他
固定資産に振替え承認の件
第3号議案 第2期（平成23年度）財務諸表等の承認
第4号議案 評議員会招集の件
第5号議案 株式に関する議決権行使の承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事7名全員の書面による同意の意思表示により、
理事会の決議があったとみなされた。

(2) 第3回 定時評議員会

日時：平成24年6月7日

開催場所：株式会社住生活グループ会議室（霞が関ビルディング 36F）

決議事項：第1号議案 第2期（平成23年度）事業報告書
第2号議案 建設仮勘定（建物）を基本財産からその他固定資産に
振替える件
第3号議案 第2期（平成23年度）財務諸表等
第4号議案 定款の一部変更について
第5号議案 理事選任について

出席等：議決に加わることの出来る評議員8名中6名が出席し全ての議案に
対して全員一致をもって承認可決した。

(3) 第5回 臨時理事会

日時：平成24年6月7日

開催方法：株式会社住生活グループ会議室（霞が関ビルディング 36F）

決議事項：第1号議案 代表理事選任の件

出席等：議決に加わることの出来る理事8名中7名が出席し議案に対
して全員一致をもって承認可決した。

(4) 第6回 臨時理事会

日時：平成24年10月31日

開催方法：書面決議

決議事項：第1号議案 平成24年度助成先及び助成金額について承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事8名全員の書面による同意の意思表示により、
理事会の決議があったとみなされた。

(5) 第6回 通常理事会

日時：平成25年2月25日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 平成25年度事業計画の承認を求める件

第2号議案 平成25年度正味財産増減予算の承認を求める件

第3号議案 一般財団法人生活環境研究センターを吸収合併する件

第4号議案 評議員会招集の件

出席等：提案書に対し、理事8名全員の書面による同意の意思表示により、
理事会の決議があったとみなされた。

(6) 第3回 臨時評議員会

日時：平成25年3月12日

開催方法：書面決議

決議事項：第1号議案 一般財団法人生活環境研究センターを吸収合併する件

出席等：提案書に対し、評議員8名全員の書面による同意の意思表示により、
評議員会の決議があったとみなされた。